

# 四條畷市教育委員会ニュース

内容：

「郷土史かるた・タブレット端末の活用」

四條畷郷土史かるた復刻版の完成

郷土史かるたの活用

タブレット端末を活用した授業

## 「郷土史かるた・タブレット端末の活用」

### 四條畷郷土史かるたとは



「四條畷市郷土史かるた」は、今から35年前（昭和54年）、四條畷中学校の生徒たちが文化学習発表会にむけ、「四條畷市を見つめよう」のテーマのもと、学習してきた成果として作り出されました。

生徒たちは、社会科で郷土の歴史、地理を学び、実際に自分たちの足で市内の神社など郷土の旧所名跡をたずね、出来事や地名に関する背景や由来を整理し、その資料をもとに、1セットの読み札（「あいうえお」順に44句）を創作し、水彩画による絵札でかるたを完成したそうです。同時に、かるたに取り上げた市内史跡の44か所に、木製の立札（句碑）も

生徒たちの手により制作され、保護者・地域の協力を得て設置されました。

35年を経た昨年（平成26年）、当時の木札もほとんどが現存せず、この機会に四條畷中学校で、生徒たち有志（郷土史かるた絵札作成委員）によるかるた復刻版の作成プロジェクトが進められました。委員に参加した美術部員や有志の生徒たちは、自分たちの独創性を加味しながら、以前の水彩画を「切り絵手法」にかえて完成させました。

また、四條畷市の観光可視化プロジェクト事業として、この郷土史かるた復刻版完成に合わせ、新たに立札（句碑）が市内50か所に建立されました。

四條畷中学校の森田政己校長は、「郷土の歴史にふれ、自分たちの町に多くの歴史遺産や語りつがれてきた郷土の貴重な文化」について学んでほしいと、自ら道徳の時間に郷土史かるたを使って授業をされています。



### 道徳主題名「郷土愛」

学習のねらい：地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。

### 教員研修に「郷土史かるた」の活用



の鮮明さに感心したり、日ごろ何気なく通り過ぎていた史跡などにまつわるいわれを知る機会にもなりました。

本市が実施していますキャリアステージに応じた様々な教員研修がありますが、今回、初任者教員と10年目教員対象に「郷土史かるた」を使った模擬授業が行われました。これは、今回復刻された四條畷郷土史かるたを知ってもらうことと、授業において、どのように活用すればよいか。グループに分かれて考えを出し合いました。絵札の



## 教育委員会教育部 各課対抗「新春郷土史かるた大会」が開かれました



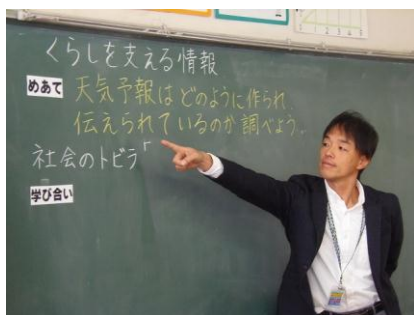
1月26日（木）夜、市民総合センターの和室において、教育委員会各課対抗の「新春郷土史かるた大会」が行われました。この大会は「郷土史かるた」を通して、市職員自らが、四條畷市の郷土を再認識し愛着をもつことで、四條畷市の文化や伝統に誇りを改めて感じる機会になればと開かれました。

日頃の担当業務に追われ、郷土を見つめなおす機会も難しい毎日です。

この時ばかりは、童心にかえって無心に絵札の獲得に興じることで、郷土史かるたに興味・関心を持つ機会になったようです。



## タブレット端末を授業に活かす取組みが始まりました



1月13日（火）、四條畷南小学校5年1組において、井上純教諭による社会科の授業公開が行われました。今回の授業では、7台のタブレット端末を子どもたちが授業においてどのように活用しているかが公開されました。

現在、本市において各学校の特色ある教育を推進させるため、3年前から大型テレビを中心にプロジェクター、書画カメラ、パソコン、デジタル教科書など、ICT（Information and Communication Technology）情報通信技術を活用した機器を導入し、授業において、より視覚的に教材を提示しながら、子どもたちの理解度を高める教育が急速に進んできています。



従来の教育方法は、先生が黒板と教科書で教え、子どもたちはノートに写しながら、受け身的に教えられるスタイルが営々と行われてきました。最近では、教育機器の導入により黒板とチョーク主流の教育から、話し合い活動を取り入れたり、様々な教育機器を使って情報を瞬時に活用し、自ら考え問題を解決していく教育へと変化してきています。



これからの社会では、自分一人で考えて正解を出すのではなく、他者と協調・協働して問題を解決する力が求められています。また、知識を覚えるだけでなく、思考・判断力や表現力も必要です。知識重視の今までの教育から、子ども自ら主体的に学び、多様性を認め合い、お互いに学び合う教育への転換が世界的な主流となりつつあります。

今年度、学校に市の施策としてタブレット端末が導入されたのは、先生が黒板と教科書で教え、子どもたちは教えられるという今までの「一斉型授業、教師主導の授業」から「子どもが自ら主体的に学ぶ授業」への転換が図られるようにするためです。台数や指導体制にまだまだ不十分さがありますが、今後計画的に整備されていく予定です。



この日の授業では、子ども3人に1台のタブレット端末を活用し、単元「くらしを支える情報」で、NHKニュース番組の「天気予報」がどのようにつくられ、伝えられているかをインターネットで、NHK for School サイトに接続し、子どもたちで調べ、まとめていく授業が行われました。

今回の授業公開には、市長さんをはじめ、市の幹部の皆さん、教育長、教育委員、市議会議員の皆さん方も参加され、タブレット端末を活用した新しい教育方法を熱心に視察されました。